

JA

OLOMOUČ

チェコ共和国



32,1m

中央ヨーロッパ最大のバロック様式の彫刻群

# 聖三位一体柱

2000年よりユネスコ世界遺産に登録



ホルニー広場にある聖三位一体柱は、後期バロック時代の特異な作品です。この時代、オロモウツでは、建築や芸術が未曾有の発展を遂げました。

聖三位一体柱の裏舞台のキーマンとなったのは、地元の建設業の起業家であり石工であった**ヴァーツラフ・レンダー** (Václav Rindler) でした。

レンダーの工房はモラヴィアでも最大級の規模に数えられていました。

レンダーは帝国特権により、ハプスブルク帝国内のどこであっても自分が設計した建築物を構築することが許されていました。

オロモウツでは、数種類の噴水、聖モジツ教会の聖パウリンの祭壇、雪の聖母マリア教会の門を含む数多くの遺跡を残しました。



## 聖三位一体柱

2000年にユネスコの世界遺産に登録された聖三位一体柱は、オロモウツの街が誇る珠玉の遺産です。

聖三位一体柱の美しさと彫刻装飾の多様性、その精緻なデザインと規模、そして宗教的なメッセージは、何世紀にもわたり、道行く人々を魅了してきました。



1715年、この街がまだペスト禍の最後の危機に苦しんでいた時、ヴァーツラフ・レンダーは並外れたモニュメント（記念碑）の構想を抱き始めることになります。

当時、レンダーはドルニー広場でのペスト流行の終焉を祝う柱の建設に携わっていましたが、隣接するホルニー広場でさらに規模が大きな記念碑を建設することがレンダーの大いなる野望となったのです。

1716年の初めに、レンダーは市議会にこの計画を詳細に綴った書簡を送ります。

市議会はこの案を承認しました。

レンダーはすぐに、柱のモデルを制作し、予算などを含め必要な書類すべてを提出します。

およそ11,000ギルダールのコストがかかることになったこの柱の建設にあたり、初期の作業を自費でまかなったことから、レンダーのこの柱の建設に対する熱意が見て取れます。

### ワンポイント情報。

- この建築案での柱の邪魔になるため、ヘラクレスの噴水が、少し離れた場所に移動することになりました。
- 聖三位一体柱は、1717年から1754年まで、37年かけて建築されました。

レンダー自身は完成した姿をみることはありませんでした。

レンダーは、1733年に未婚で子供もいないまま64歳で他界しました。

故国に偉大な影響を与えたレンダーは、聖モジツ教会に埋葬されています。

レンダーはこの傑作の最下層の高さまで、つまり礼拝堂と彫刻装飾の一部を完成させました。

レンダーの遺産は残りの建設資金に使われました。

レンダーの死後、街の中心に残された未完成の巨大な石碑は多くの人の怒り買うことになりました。

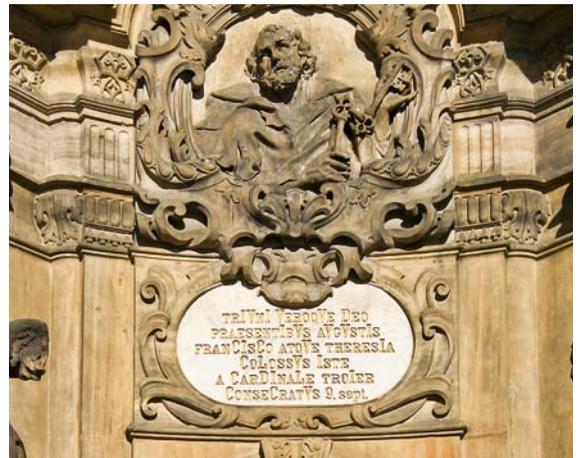
このため、オロモウツの議員により、1744年にこのプロジェクトを終了することが決定します。

聖三位一体柱は、1754年9月9日、マリア・テレジアとフランツ1世皇帝夫妻の参列の元、オロモウツ司教とトロワイエ枢機卿により献堂されました。

献堂式を記念する飾り額は、現在でも礼拝堂の入り口の上に展示されています。

建設および彫刻は、地元の職人や芸術家のみの手で行われたため、聖三位一体柱は地元の愛国心を象徴するものでもあります。

ヴァーツラフ・レンダーにとっては、聖三位一体柱は夢の実現でもあり、キリスト教の信仰の現れでもあったのです。



### ワンポイント情報。

- 1753年に作品が完成に近づく、オロモウツ出身の画家であるルドウイク・イグナーツ・ミュラーにより、柱の石の部分と彫像はすべて熱した油により保存処理が施されてから大理石を模して白く塗られました。当時の色は、現在の姿とは違っていたということになります。



ペスト終息記念碑は、17世紀初期からヨーロッパに登場します。

ヨーロッパのペスト終息記念碑は、1614年にローマのサンタ・マリア・マッジョーレ広場に建てられた記念碑がモデルとなっています。

オロモウツの聖三位一体柱は、砂岩で作られており、この流行の最後の好例に数えられています。

聖三位一体柱は、献堂からわずか4年後に大きな問題に直面することになります。

オロモウツの街がプロイセン軍に包囲された最、聖三位一体柱に何発かの砲弾が命中したのです。

オロモウツの人々はプロイセン将軍の元に行列をなし、聖三位一体柱は撃たないように懇願しました。ジェームズ・キース総督は、人々の願いを聞き入れました。

このエピソードをたたえ、聖母マリアの被昇天の上には金銅板製の**金色の砲弾**が設置されています。



こういったすべての特色により、聖三位一体柱は、チェコ共和国で2番目に規模が大きい記念碑の保護地域のバロック建築の珠玉の遺跡となっています。

聖三位一体柱は、**76メートルの高さの塔と天文時計を持つルネサンス期のゴシック様式の市庁舎**の近くに位置しています。

市庁舎に関して触れた最初の文献は、1378年にさかのぼります。

15世紀に製作されたオリジナルの天文時計は、1950年代にオロモウツ市民であるカレル・スヴォオリスキーにより社会主義リアリズム形式で近代化されています。



市内の中心部には**数カ所にバロック様式の噴水**もあり、そのうちのいくつかは聖三位一体柱の近くにあります。

メルクリウス、カエサル、ネプトゥヌス、ヘラクレス、ユピテルの噴水は、ホルニー広場とドルニー広場にあります。

市内には、トリトンの噴水も共和国広場にあります。

2002年には、オロモウツ出身のイヴァン・シーマーによって設計されたアレイオンの噴水も新たに追加されました。





**最も重要な記念碑**

- 1 聖三位一体柱
- 2 天文時計を持つ市庁舎
- 3 ロマネスク様式の司教宮殿
- 4 聖ヴァーツラフ大聖堂
- 5 聖モジツ教会
- 6 大司教宮殿
- 7 雪の聖母マリア教会
- 8 聖ミカエル教会
- 9 聖ヤンサルカンドル礼拝堂
- 10 カエサルの噴水

- 11 ヘラクレスの噴水
- 12 メルクリウスの泉
- 13 ネプトゥームスの噴水
- 14 ユピテルの噴水
- 15 トリトンの噴水
- 16 アレイオーンの噴水
- 17 イエズス会寄宿学校
- 18 テレジアの門
- 19 テレジアの兵器庫
- 20 カプチン教会
- 21 聖母マリア柱

- 22 ハウエンシルド宮殿
- 23 王冠の塞
- 24 ドミニコ会教会
- 25 ヴィラ プリマヴェシ

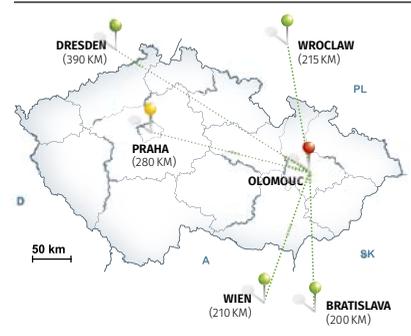
**文化**

- 1 モラヴィア劇場
- 2 モラヴィア・フィルハーモニー管弦楽団
- 3 シアター・ナ・シャントフツェ
- 4 大司教管区博物館

**自由時間**

- 1 オロモウツ展示会所
- 2 スイミングプール
- 3 アンドルフ サッカースタジアム
- 4 ウィンタースタジアム
- 5 セマフォルセンター

駐車場	公衆便所
駐車施設	トラム路線
バス停留所	城壁
市警察	鉄道
警察	シティパーク





夏の間には、「ガイド付きで巡るオロモウツ教会」プロジェクトの一環として、**聖三位一体柱の礼拝堂**を訪れることができます。

観光ツアーの詳細については、市庁舎のアーケードにあるインフォメーションセンターにお立ち寄りください。



### オロモウツインフォメーションセンター

ホルニー広場、市庁舎アーケード内  
チェコ共和国、オロモウツ市 779 11  
電話: (+420) 585 513 385、392  
メール: infocentrum@olomouc.eu



Olomouc Tourism



olomouc\_city

[www.tourism.olomouc.eu](http://www.tourism.olomouc.eu)

ISBN - 978-80-87602-93-5

オロモウツ市発行、2020年

第1版

写真: オロモウツ市公文保管所、m-ARK

グラフィックデザインおよび印刷: m-ARK Marketing a reklama, s.r.o.

内容については細心の注意を払って作成されていますが、すべての情報の正確性については証いたしかねます。



United Nations  
Educational, Scientific and  
Cultural Organization



World  
Heritage



MINISTRY OF CULTURE  
CZECH REPUBLIC

このプロジェクトは、財政面で文化省の支援を受けています。